愁い

mmo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愁い

【Ｎコード】

Ｎ８０７９Ｃ

【作者名】

ｍｍｏ

【あらすじ】

誰にもいえない話。しゃべっても心は晴れない。ただ。他に利用方法があれば・・・

誰にも言えなかった話。

ねっ。

聞いて。

いいじゃない。
ほんの少しだけなんだからさ。
ねっ。
お酒の席だし。
ぶっちゃけ話。
聞きたいでしょ？
女のぶっちゃけ話、どうよ。
うん、ありがと。
彼方、わざと興味なさそうな顔をしてるね。
うん、解ってるよ、解ってる。
ふぅ。

えっ？
あ・・・また・・・。
彼方は構わなくていいよ、いつものことなんだから。
ふぅ。
おじさん！

いきなりしゃしゃり出てきて、説教たれないで。
ね、私、大人、ちっちゃいナリしてるけど。
Ｒ１８以上なの私。
酒場出入り自由のフリーエージェント。
大人・・・大人・・・ニホンゴワカリマスカ？
免許ミセマショカ？　シャチョサーン！
えっ・・・あ・・・以外に乗っかってくるねおじさん。
ノリのいいのは好きだけど。
うん、ごめん、なんか、ごめん。
・・・バイバイ。

ふぅ。

お笑いブームなんて、大ッ嫌い！

ふぅ。

えっ？

ああ、ほら、やっぱり興味がある。
ねっ。
解ってる解ってる。
うん？
そりゃ解るわよ。
十何年ぶりだけどさ。

彼方だって、私の顔一目で見分けたしさ。
私も子供の頃を彼方を知っているだけだから。
余計なイメージを持たずに済んだのよ。
子供の頃と、彼方は瓜二つ、だからわかるの。
うん。
そういうことってあるよ。
うん。
だから、同窓会って不倫が発生しやすいのよね～。
「本当の私を知っている」
なんて、思い込んじゃってさ～。
彼方は家庭を築いても不倫する、必ず。
うん、私には解るよ、わかっちゃってんだから。

うん？　ううん・・・。

話すよ。

うん。

ほら、えっと、うん、あれ。
私たちが小学生の頃・・・いくつだっけ？
いいや。
うん。
あれ。
アーレ！
オーレィ！

うん。
彼方、妹いたじゃない。
赤ん坊、皆に見せびらかしてたでしょ？
うらやましかったな。
うん。
おもちゃだとか、そんな感じじゃなくて。
うん。
あれね。
赤ちゃん盗んだのあたしなんだ。

なんでって・・・ねぇ。
うん。
これから話すよ。
面白いよ～。
うん。
だから。
怒りを堪えるのやめなよ。

場所？
だって、ここなら。
突然彼方が飛び掛ってくることが無いから大丈夫でしょ？
周りに人居るし。
さっきのおじさんなんて、胸板厚くない？
ねっ？　興味ない？
うん。
あっ、でも。
これは後から思いついた理由だから、気にしないで。
御免ね。

うん。
盗んだ。
御免ね。
あっ、でもね。
お母さんも喜んでくれたよ。
アレね、私も妹か弟が出来そうだったんだけど。
お父さんがね、一人で十分だからって。
中絶させられちゃって。
ねっ。
お母さんのためだったんだ。
あっ、これも後から思いついた理由だから、気にしないで。
でね。
え～っと。
ああ、その時すでにお父さんと別居してたから。
すんなり、私の家族になったんだ。
ゴメンゴメン、アハハハハ♪
うん。

ふぅ。

お酒！　お酒、いらないや。
私は真面目だよ、だからお酒なんて飲まない。
うん。

結構、警察の人居たな。

私服の人も解ったよ。
私、目ざとい子供だったから。
うん。
アレ、でも、家はそんなにマークされてなかったんじゃないかな。
ほら。
後で気付いたんだけど。
赤ん坊を盗むと警察は、薬局とかスーパーとかコンビニとか見張るのよ。
オムツとかミルクとか色々必要になるじゃない。
私のお母さん。
ほら、あの、溜め込んじゃってたから。
うん。
それに、ホラ。
ランドセルおじさん！
ハゲでデブで短パンでいつも赤いランドセルしょってて。
逮捕されちゃったよね～。
いたよね～そんなの。
うん。

あっ、そうだ、思い出しちゃった。
彼方の泣き顔。
アハハハハ♪
その頃は私の体の方が大きくてさ。
赤ん坊が居なくなった時。
私の胸の中でワンワン泣いて。
ギュって抱きしめて。
エヘヘヘ。

うん？
嘘なんかついて無いよ。
だって、私何も言わなかったじゃない。
何も言わなかった。
慰めてなんかないよ。
もう。
勝手な想像はよしてよ。
そういうの嫌われるよ。
恋人と言った言わないの大喧嘩。
そんなのヤでしょ？
私は何も言わなかったの。

おじさんが捕まってくれたし。
なんだかおじさんの家から骨も見つかったみたいだし。
たしかアレ、犬の骨なんかじゃなかったっけ。
うん。
でも。
バレるといけないから。
やっぱり引越ししなくちゃいけないじゃない。
ホラ、理由なんていくらでも。
「こんな恐ろしい町には居られません」
とか。
うん。
理由なんていくらだって作れるんだ。
事実にちょっとだけ手を加える。
それでいいのだ―！

んっ？

誰だ―小声でバカボンって言った奴！

ふぅ。

お酒・・・飲まない・・・お酒・・・飲むもんか！
ふぅ。

うん？
えーっとね。

赤ちゃん。
甘い香りがしたよ。
肌も滑々で、白く透き通ってて。
うん。
ねぇ、彼方も、いい臭いがする。
うん♪

えっと。
引越し先で家族三人仲良く暮らしましたとさ。
おしまい。
えっ。
ブー。
わかったよ。

うん。
楽しかったよ。
私がね、ちゃんとオシメを換えたりミルクを飲ましたり。
可愛かったよ。
うん。
一緒にお風呂に入って、一緒の布団で寝て、一緒に遊んで。
私にずっと、ぴったりで、すっごく甘えん坊で。
うん。
おっきくなっても、二人は仲良しで。
彼女の方が私の背よりずっと大きくなったんだよ。
彼方はお父さん似なのよって、お母さん嘘ついた。
うん。
一緒にお風呂に入って、一緒の布団で寝て、一緒に遊んで。
うん。
いい臭いがするの、それに肌が滑々で。
大好きだった。
気付いたら、好きになってた。
うん。
女の私が、女の彼女を好きになってた。
うん。
ふざけあって、キスをしたりした。
抱き合ったり。
興味本位で、二人して、エッチなビデオを見たりしたんだよ。
あれは気持ち悪かったな。
うん。
大好きだった。
いろいろ、理由を考えたよ。
理由は何時だって後から思いつくんだ。
うん。
本物の家族じゃない。

血は繋がっていない。
私にはそれが心の支えだった。
だって。
何時だって人は、血を繋がった者同士の恋愛に。
後ろ指を差すでしょ！
私たちは大丈夫！
私たちは本当の家族じゃないから恋愛が出来る。
愛し合えるんだ！
うん。
うん。
でも、私が愛してるって言ったら、気味悪がれるかも知れない。
家族じゃないって言ったら、本当に。
嫌われるかもしれない。
怖くて。
それでも好きで、たまらなくて。
うん。
彼女、いつも笑ってて。
可愛くて愛らしくていい臭いがして肌が滑々で。
抱きしめあう時は、私が彼女の胸にうずくまってた。
うん。

うん。

うん。

彼女ね。
留学しちゃったんだ。

オーストラリアに。
私、嫌われたのかな。
でね。
ダイレクトメールが届いてね。
写真が入ってて。
そこにね。
「恋人が出来ましたって」
男の人と、一緒に。

私。
よかったねって。
嘘ついたの。
心のどこかで。
私。

うん。

いい臭いがしたんだ。

赤ちゃん。

それでね。

肌もスベスベでね。

うん。

それでね・・・それでね・・・いい臭いがしてね・・・それでね・・・

あっ。

うん。

いい臭いがする。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8079c/

愁い

2010年11月17日02時54分発行